

# あいあいあい



## あつたかアイディアで

### 『節電の冬』を楽しもう！

理事 鈴木真奈美

女川原発が停止したまま、6度目の冬を迎えました。東日本大震災、そして福島原発事故により、私たちはエネルギーのことをより深く考えるようになりました。そして改めて「原発なんて要らない！」と強く思い今日に至ります。

去る10月18日、あいコープ脱原発エネルギーシフト委員会の企画として、冬を暖かく過ごすテクニクを語り合うカフェを開催しました。東北での暮らしに不慣れな転勤族の方を含む、多くの組合員さんに参加していただき、楽しく、盛況な会となりました。

脱原発エネルギーシフト委員会では、年間を通して省エネの取り組みを皆さんに発信してまいります。少ないエネルギーで暖かく、または涼しく快適に暮らす事が、脱原発に結び付くと信じているからです。再生可能エネルギーで暮らす時代が来ても、じゅうぶん賄えると思われているからです。中でも

冬季は『節電アクション』を開催するなど、節電できるチャンスを活かそうと呼びかけています。

安定ヨウ素剤を手元に置き、避難計画を確認しながら原発事故に怯えて暮らす世界。一方、ほんの少しの手間をかけて、できる範囲の工夫をし、安全に生み出されたエネルギーを大切に使う世界。どちらが幸せで、人間らしいかということは明らかだと思っております。

東北の冬は、電力を多く消費するイメージがあります。そしてそれを我慢するのは暗く寒く苦しそう。でも私たちに先人から受け継いだ、冬を乗り切る知恵がある！さらに現代ならではの素材やアイテムも。暖かく暮らすアイディアを共有し、『節電の冬』を楽しむ仲間が増えれば、原発に依存しない社会がより近いものになるでしょう。

# 新米の美味しいランチを味わいながら 『食と農』を学びました！

秋のフォーラムが11月15日から12月1日の三週間にわたり計10カ所で開催されました。このフォーラムは、各地区共通テーマで行う商品学習会です。今年のテーマは優ぶらんど基準達成に向けて努力を続けている農産生産者の努力を学ぼうと、地区委員会が取り組んだ夏の産地見学を振り返りながら、私たちの「食と農」についてみんなで話し合おうというものでした。フォーラムには県内三産地(大郷みどり会・七郷み

ば会・追ナチュラルファーム)から生産者も参加し、農業にかけける思いを伺うことが出来ました。どの会場でも、地区委員さんが工夫したメニューでネオニコ系農薬排除で作った美味しい新米を味わいながらの楽しいランチ会になりました。

また、食パン開発プロジェクトからは食パン開発の経過報告と新しい食パンのネーミング募集があり、食パンの試食も行われました。



子どものお弁当  
用のご飯は、毎朝  
私が鍋で炊いて  
います

七郷みつば会  
阿部哲也さん

若林地区では七郷みつば会の阿部哲也さんが参加して下さいました。七郷みつば会は、東日本大震災で津波の被害を受けました。当時の田畑の復興のお話しやお米のお話しを伺いました。参加者から、みつば会の田んぼは全部でどのくらいの面積あるかという質問に、七郷みつば会では、七郷みつば会が所有している田んぼの面積は約100ヘクタールと答えて下さいました。



11 / 15  
若林地区

「お弁当」を切り口に、フォーラムを企画しました。今回はマナーをおかすになりがちなお弁当の工夫ということで、おかずのバリエーションやおかずを展開する点に絞ってご提案。



11 / 16  
青葉A地区

若林地区担当理事  
成澤菜穂子

りますか？との質問に、七郷小学校の25個くらいかなと言われ、とても広い面積でお米が作られていることを実感。  
参加者からは「できるだけ農薬を使わず美味しいお米や野菜を一生懸命作っているのが伝わり、買ってみよう」という感想をいただきました。

まず皆でお弁当のトークをした後は、お弁当には欠かせないお米について、他で売っている米とあいコープの米との違いから、優ぶらんどへ話を展開。参加者に「ネオニコチノイド系農薬を知っている」という方が一人もいらっしゃらなかったため、それを使用することのメリット、デメリット、それをあいコープが排除する理由について説明しました。

続いて、大郷みどり会の清水浩規さんと只野正志さんから生産者の取り組みと、米の品種による生産方法や味の違いについてお聞きしました。米の種類については、参加した方からの声も上がり、リラックスした雰囲気です。

そして調理台に移動して、食育コンダクターの前田さんと本吉さんから、準備していただいたお弁当の説明を伺い、いよいよ持ち寄った空のお弁当におかずを詰めていきました。一つのお弁当に詰め切れないほどの美味しそうなおかずの数々に、生産者を含めた参加者の数々に、皆さん笑顔が見られました。

青葉A地区担当理事

牧梓咲



## 組合員の想いに支えられた熊本支援 支援募金に感謝申し上げます。

4月14日に熊本地震が起きた直後、3・11を経験した自分たちが今度は被災地支援に取り組みとうとあいコープは動き始めました。5月2日から8週間にわたり組合員の募金を募り332万円余りの支援募金が集まりました。この支援募金を支えとして4、5月と8月の二次に渡り約25名の役員が現地にとび、グリーンコープや支援団体よか隊ネットの皆さんと協同し「顔の見える」復興支援活動に取り組みました。今回の活動の収支を左記の通りご報告します。支援募金をお寄せ頂いた皆様に改めて御礼申し上げます。



現地の支援団体「よか隊ネット」と協同して炊き出しなどを行いました。

| 2016年 熊本地震被災地支援 収支報告 |           |           |
|----------------------|-----------|-----------|
| <b>収入の部</b>          |           |           |
| 緊急支援募金               | 3,329,900 | 組合員からのカンパ |
| 収入合計                 | 3,329,900 |           |
| <b>支出の部</b>          |           |           |
| 義援金等                 |           |           |
| 生産者お見舞金              | 50,000    | 熊本マルタ     |
| グリーンコープ共同体義援金        | 300,000   |           |
| グリーンコープ熊本義援金         | 300,000   |           |
| よか隊ネット支援金            | 707,561   |           |
| 小計                   | 1,357,561 |           |
| 支援活動費                |           |           |
| 支援物資                 | 399,597   | 飲料、トレペ等   |
| 交通費・運搬費              | 1,572,742 | のべ22名派遣   |
| 小計                   | 1,972,339 |           |
| 支出合計                 | 3,329,900 |           |



集会後、19日から20にかけて被災地を巡るツアーが行われた。写真は大川小学校跡



BMW技術活用事例発表 大郷みどり会 西塚忠樹さん

二日目は、次世代を担う若手生産者たちがBMW技術の活用例報告や、生物活性水の有効性を検証する実験報告を行いました。生産現場で試行錯誤を繰り返しながら自分たちの手で新しい技術に挑戦し自分たちの目指す農業を発信している生産者の姿勢に、大きな希望を感じることができました。

体験から、目先の利益ではなく子どもたちや孫たちの世代の利害を考え成長追求から成熟への発想の転換が必要であると訴えられました。同じ再生可能エネルギー事業でも東京に利益を吸い上げる大企業・中央集権型と、地域の自治・自立のための再生エネルギーでは地域で果たす役割がまるで別物なのです。赤坂さんの現状認識はBMW技術の目指す地域づくりと軌を一にしているように思いました。

11月18・19日、第26回BMW技術全国交流会が204名の参加で松島町において開かれました。今年の全国交流会は、BMW技術協会と宮城の生産者、あいコープでつくる実行委員会が準備し、東日本大震災の被災地での開催であることをふまえて、「震災から5年、「土」「人」「もの」「地域」づくりについて考える」をテーマに掲げました。BMW技術は、あいコープが目指す耕畜連携・地域循環型社会の柱として生産者と一緒に推進してきたものです。BMWという生産現場の技術と被災地復興にどんな関連があるのか、交流会の一日目は参加者と問題意識を共有する場となりました。

最初に開催あいさつで西塚忠元実行委員長（大郷みどり会）は「国が進めてきた復興事業は様々な問題を抱えているが、BMW技術の理念を糸口に我々のアプローチを考えていこう」と問題提起しました。基調講演では民俗学者の赤坂憲雄さんが、近代が作ってきた人と自然の境界が、津波で泥の海に戻された被災地の風景を歩いてきた

自然循環に導かれた東北の再生を願って  
11 / 18 ・ 19 BMW技術全国交流会報告



美味しい！楽しい！大好き！あいコープ

# Wa!わ祭り

昨年に引き続き  
2,000名を超える来場者！

当日の新規加入者 44名！  
さらにあいコープが広がりました！

Mr. Non smoking



組合員と生産者が協同で創るお祭り「Wa!わ祭り」はあいコープみやぎの名称変更前、生活協同組合仙台共同購入会の設立10周年を記念して1989年に始まりました。生協設立以来掲げている「食の自給と安全・自然環境保全・地域福祉推進」という理念を生かしたお祭りとしたの思いから、人と人の輪(わ)、人と自然との和(わ)、その二つの「わ」から「Wa!わ祭り」が誕生し、毎年開催しています。

10月30日(日)、『サンフェスタ』に於いて、Wa!わ祭り2016を開催しました。「家族で楽しむお祭り」を目指した今年は、イベントも盛りだくさんで、昨年に引き続き来場者が2,000名を超え、当日加入者は44名にものぼり、あいコープの輪がさらに広がりました！！お祭りの様子を報告します。



開場を待ちわびる来場者の列



実行委員長から

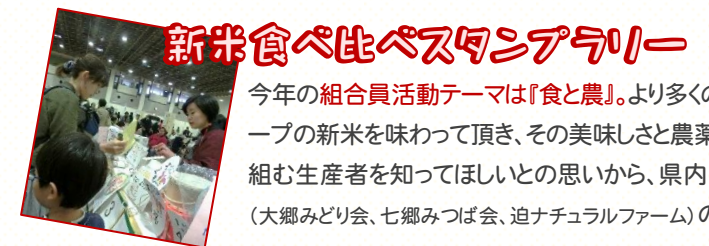


成澤菜穂子実行委員長

今年もたくさんの方々のご協力のおかげで、無事に「Wa!わ祭り」を開催することができました。今年は「家族で楽しむ」そして「美味しい！楽しい！大好き！あいコープ」をテーマに準備を進めてまいりました。実行委員会のアイデアが、イベント企画やブースで形となり、来場された方にも楽しんでいただけたのではと思います。昨年に引き続き来場者は2000名を超え、44名の方が当日加入して下さいました。組合員の紹介で来場された方も多く、こうしてあいコープの輪が広がっていく事をとても嬉しく思います。これからも、組合員・生産者・職員が一つとなり、その輪を大切にしていきたいと思っております。最後に、お祭りを盛り上げてくれた実行委員はじめ、サポーターのみなさま、生産者・職員のみなさまに感謝申し上げます。



あいコープの安全安心でおいしい食材。そして地場で生産され、みんなに愛される商品を、私たちは『あいふらんど』と呼びます。今年ももぐもぐミニウインナーとこだわりの麺つゆの2点が認定を受けました。



今年の組合員活動テーマは「食と農」。より多くの方にあいコープの新米を味わって頂き、その美味さと農業削減に取り組む生産者を知ってほしいとの思いから、県内の産直産地(大郷みどり会、七郷みつば会、迫ナチュラルファーム)の新米スタンプラリールを実施しました。様々な年代の方から200枚もの応募があり、賞品に小さなお子さんにも喜んでもらえるものを揃え、抽選会を行いました。当日会場で産直米の年間登録をされる方もいらつやり、産地のお米のおいしさを伝えることが出来ました。



ラブコール試食会は今年初の試みで、組合員からリクエストがあった商品を試食できるというコーナーでした。約40食ずつ用意した整理券はあっという間になくなってしまったほどの人気で、『おいしい!』という声が多数でした。おいしいと思っただけの方には、お気に入りの一品として継続的に注文していただくと嬉しいです。普段気になっている商品を試して頂ける、良い機会になりました。

理事 太田代一世



毎年恒例のながめやま牧場バスツアー。今年は参加者が牧場で撮影した写真を応募していただき、フォトコンテストを開催しました。応募作品は全部で12作品。どれもながめやま牧場見学の楽しさが伝わる素敵な作品ばかりで、大賞の選考は非常に難航しました。大賞に選ばれたのは、高橋功成さんの写真で、牧場内で牛との触れ合いを見事に捉えた1枚でした。

事業部課長 庄子裕章



現在PB食パン開発を行っているプロジェクトチームが、試食ブースを展開しました。配合を変えた2種類の食パンを300名近くの来場者に食べて頂くことができ、たくさんの感想を聞き取ることが出来ました。皆様のご意見を参考に、さらにおいしい食パン開発を進めます!

商品部 吉武悠里



昨年に引き続き、今年も人気だった一日子ども店長。65名もの子どもたちが出展ブースのお手伝いをして、お給料のお買物券をGETしました。



あいコープ農産品のこだわりを知っていないと正解できないちょっと難しい〇×クイズですが、たくさんの方が参加して、参加賞が足りなくなるほど盛況でした!



あいコープふくしまから、100名近くの組合員とその家族がお祭りに参加。また、ふくしま自慢の『時短・増量・コラボ』メニューのドライカレーも振る舞っていただきました。



誰もが  
安心して  
暮らせる社会を

## Wa!わあ祭りで 被災地の応援ができました



ブース出展の皆さんと

10月30日(日)、サンフェスタでWa!わあ祭りが開催され、今年も被災地応援・交流ブースを出展しました。

参加団体はNPO法人お茶っこケアよつてがいん、岡田編み会(元福田町南仮設住宅編み会)、仙台沿岸編み会・縫い会、手づくりくらぶ Arabesque(アラベスク)、放射能問題支援対策室いずみ(葛尾村支援)、石巻地域若者サポートステーションハープガールズの6団体です。

よつてがいんには、月に数回ケアメイトがお手伝いに行っています。

す。当日は、石巻より職員と利用者さんが来て、昨年に引き続き割り箸アートの作成をしました。遠路はるばるでしたが皆さん疲れも見せず、ブースを見に来る方々との交流を楽しんでいました。

岡田編み会は、震災直後からのおつきあいです。製作をお願いしたパスちゃんミトンは、完成までに3ヶ月を要した力作です。かわいらしい作品に足を止める人も多く、子どもたちが、お母さんと相談して買っていきました。

ハープガールズで製作しているサシエは、高橋徳治商店の敷地内で栽培しているハープを使用しています。花芽は一つ一つ選別し、きれいなものだけを布袋に詰めています。

まだまだ復興は道半ばです。このつながりを大切に、応援し続けて行きたいと思っています。

報告  
10/18  
(火)

泉B地区委員会  
ちよつと気になる添加物のはなし

## 本物の味、自然の味を大切に 味オンチにならないようにしたいね

添加物って何だろう？遣伝子組み換えって何？農薬って悪いの？疑問だらけの昨今です。

あいコープみやぎ副理事長で食育コンタクターの高野恵美子さんを講師に、添加物の話を伺うことができ、とても勉強になりました。

改めて、本物の味、自然の味を大切に、味覚オンチにならないようにしたいです。

厚生省が認可している食品添加物は1400種もあり、常に中身は変動しているそうです。日本が輸入しているバナナやオレンジは防カビ剤や農薬が使われていて、皮を除いても実にまで浸透している可能性があるというのは、とても怖いと思います。

自給自足が理想ですが、



もくもくミニウイナー料理コンテスト  
入賞メニュー3点

泉B地区委員 山木 穂子  
一日になりました。

全て自分で賄うのはなかなか難しいので、誰かが作ったものを購入する生活です。子どもや孫が当たり前に丈夫な身体で生活してほしいと願います。自分で考え選択することが大事だと改めて感じました。

後半は、もくもくミニウイナー料理コンテストの上位入賞3作をとうほく食育実践協会の皆さんに作っていただき、試食をしました。どれもおいしくアイデアが素晴らしいです。充実した一日になりました。

## 理事会議事録抄

2016年 11月1日(火)

▼Wa!わあ祭り2016の振り返りを行なった。▼生産者支援カンパ金の決算報告を承認し使途について協議した。▼アンテナショップ立町の閉店とそれに伴う食育実践協会からの要請について協議した。▼食パン開発PTからの報告と提案を承認した。▼イベントと組合員活動の連携に関する報告と提案を承認した。▼シャボン玉月間2016のキャッチコピー&ポスター募集要項を承認した。▼あいコープみやぎ2017新年会の開催企画書を承認した。▼2017年2月組合員交流会の企画書を承認した。

### 組織概要 (2016年10月分)

|          |             |
|----------|-------------|
| 【組合員数】   | 12,907名     |
| 【供給高】    | 175,417千円   |
| 【一人実利用高】 | 5,163円/週    |
| 【出資金】    | 1,097,798千円 |



# 今年も たくさん農作業ができました



『畑に行こう!』の準備をしています

そして生産者のお手伝いにも行きます。七郷クローバーズファームのトマトの作業、天童のりんこの摘花、大郷みどり会の田んぼの作業と畑の作業、わはわ美里のいちごの定植とマルチ掛け、大石田の星川さんのスイカとメロンの作業、迫ナチユラルファームの畑の作業など、春から秋の畑の季節にはプロの技を学習しています。

あい農委員会はあいコープの『田んぼに行こう!』『畑に行こう!』を企画運営しています。

『畑に行こう!』は年間登録した組合員・家族による毎月1回の活動ですが、その間毎週、作物の生育状況を観察しながら、除草、水やり、追肥などいつでも活動できる畑になるように委員会で管理作業をしています。

今年も委員会は育てた作物をアテナショップ立町の野菜市に出荷しました。ジャガイモ、玉ねぎ、かぼちゃ、とうがらし、レタスなどを地域のみなさんに食べて頂くことができました。



『田んぼに行こう!』での田植えの様子

あい農委員会  
委員長 小野奈美子

延べ活動回数154回、延べ参加人数854名(2015年度実績)みなさんも畑の活動に参加してみませんか?



## Wa! わあ祭りに参加しました



今回はじめてWa!わあ祭りに参加しました。私の担当は、加入ブースの入り口にある“ガラポン”担当で、あいコープに新規加入していた方々をブースの中に導く最初の役割です。加入説明をする先輩方にうまくバトンをつなげるよう頑張りました。“ガラポン”は特に子ども達に大好評で、たくさんの笑顔に私自身元気をもらいました。最終的に今回のお祭りで加入いただいたのは44人!今後は私も先輩方のようにきちんと加入説明をして、多くの方にあいコープに加入いただけるように頑張りたいと思います。

事業部職員 野澤亮悟

## 編集後記

地球温暖化がでつち上げだつて言っている大統領がいるようで、びっくり。異常気象が続いて農作物への影響がものすごいのに、今後もそれが続くだろうに、誰もが最近の気候がおかしいって気づいているのに、『規模拡大だ、強い農業だ、どんどん輸出だ』なんて言つて、パリ協定を蔑ろにする国があつてびっくり。売りたいからって、異常気象で収穫できなかったら売れませぬ。世界中で地球の健康を本気で考えなきゃいけないはずだし、遅すぎるくらいなのに。

広報担当理事 高野 恵美子

### ●機関紙あいあいあいのご意見・ご感想

組合員番号、氏名、電話番号をお書きの上、配送もしくはFAX(022-284-6973)にて、あいコープみやぎ理事会へ広報宛にお送り下さい。

組合員の皆さんの『つばやき』も大募集中!

## ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいコープみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「よつてがいん」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。

個人で利用できるサービスもあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

### 組合員が利用できる電話相談

- 12/13 年金相談 .....  
相 談 員：社会保険労務士 兵藤政行氏  
相談時間：13:30～15:30
- 12/13 法律相談 .....  
相 談 員：弁護士 松澤陽明氏  
相談時間：13:30～15:30
- 12/20 ぐらしの相談 .....  
相 談 員：消費生活専門相談員 加賀淳子氏  
相談時間：10:30～12:30
- 12/20 子ども相談 .....  
相 談 員：宮城教育大学教授 菅井裕行氏  
相談時間：10:00～12:00
- 12/16 思春期相談 .....  
相 談 員：臨床心理士・スクールカウンセラー 北條貴子氏  
相談時間：9:30～11:30

電話相談のお申込みは  
ジョイケア事務局へ

受付専用  
022  
284-7277

平日9:00～17:00

◎各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい。随時受け付け可能です。

◎予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話します。

### ジョイケア利用状況 (2016年9月分)

|           |     |
|-----------|-----|
| ささえあい(保障) | 0件  |
| たすけあい(ケア) | 53件 |
| 集団託児      | 18件 |
| 慶弔・出産     | 9件  |
| 電話相談窓口    | 7件  |
| 計         | 87件 |

### 組合員が個人で利用できるサービス

- |         |         |
|---------|---------|
| 1 たすけあい | 4 ささえあい |
| 2 集団託児  | 5 慶弔    |
| 3 電話相談  |         |



◎ この間同級会に行ったら、歳のわりに肌がキレイだね、と言われた。きっとあいコープのいい食材を食べているからだ。

事務課 佐藤暁子



## 千葉産直サービスの

### 旬と品質を追求した『お魚缶詰』のお話を聴きました



(株)千葉産直サービス  
代表取締役  
富田正和さん



11月8日、あいコープ日の出町センターに千葉産直サービス代表の富田正和さんを招いてお話をうかがいました。「食を通して心を灯す」を企業理念としている富田さんは、年間通じて一番脂ののった時期の新鮮な魚、

それも食卓にお刺身として上ってもいいほどの高品質の魚で缶詰を製造しています。他の工場ではできない技術を持っていると胸を張る富田さん。当日、缶詰6種類を一般のものとは比べながら試食したところ、油の臭いや魚の旨みの違いに驚き、改めて富田さんが手がける缶詰のおいしさに感激しました。原料に使う油は平田産業のナタネ油(遺伝子組み換えでない)。魚も油も上質なものを使っており、酸化しやすいEPAやDHAも劣化しないまま食べることが出来ます。異常気象、海水温の上昇などが影響してか、原料魚のサイズが小さい、旬がずれる、漁獲量が少ないなど問題が山積ですが、これからも千葉産直サービスならではの缶詰を作ります、と力強い言葉を聞くことが出来ました。

千葉産直サービスは、「旬の魚の美味しさを知ってほしい」という思いで作る、素材追求型の『お魚缶詰』と、農場限定の鴨や豚肉等で作る『お惣菜』の二つの顔があります。どちらも食材自体のうま味を大切に、自社商品全て、合成添加物はもちろんたんぱく加水分解物も一切使用していません。看板商品の魚缶詰を通して伝えたいことは魚を食卓に並べる文化です。良質な素材でつくる魚缶詰は優れた料理食材になります。骨まで食べられる魚の常備菜としてコツを覚えるとツナ缶同様に、魚料理がグッと身近になりますのでぜひお試しください。弊社は、目先の生産や利益だけを考えるのではなく、「20年先の子供たちに誇れる」と胸を張って言える循環的な商品づくりをし続ける企業でありたいと思っています。

#### 簡単すぎる♪缶詰レシピ



油を切ったミニトマトとスライス玉ねぎをマヨネーズであえ、好みの野菜と一緒にサンド。カルシウムも摂れるからツナよりうれしい♪



季節の野菜と ところさば水煮(汁もまるごと)と一緒に煮るだけのスープ。お酒と塩、こしょうを少し加えるだけ。

#### Calendar \*今後のイベント\*

12/7(水) ジョイケア企画  
「争族」にならないために  
知っておきたい相続・遺言

場所/ 日立システムズホール エッグホール  
時間/ 10:00~12:00 参加費/無料

12/13(火) 脱原・エネシフ委員会  
『アトムとピース』上映会

場所/ 仙台メディアテーク スタジオシアター  
時間/ 10:00~12:00 参加費/組合員 500円

12/18(日) 放射能問題支援対策室いずみ  
子ども甲状腺エコー検査

場所/ あいコープみやぎ 日の出町センター  
時間/ 10:00~16:00

12/13(内) ~ 15(外)

#### だてうま 伊達美味マーケット出展

13日…あいコープのおやつ  
14日…鎌田醤油 (味噌、醤油・甘酒)  
15日…天童果実同志会 (りんご・ラフランス)

会場/ 仙台市青葉区一番町2丁目 サンモール一番町商店街  
時間/ 11:00~18:00



#### 生産者の皆さんへの ラブレター大募集!!

いつもおいしい食材を作ってくれる生産者の皆さんへ、メッセージを送りませんか? 『あいあいあい』が責任をもってお届けします。また、その中のいくつかを生産者のお返事付きであいあいあい 2017年2月号に掲載する予定です。配送、または下記連絡先までお寄せください。文字数に制限はありません。

〆切 12月30日

お問い合わせ・メッセージ送付先

0120-255-044

Fax 0120-849-324

Email [chiku@mamma.coop](mailto:chiku@mamma.coop)

(担当: 組織運営室長 豊嶋)

